

平成28年度 第2回鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会  
「発達支援部会」会議録

日 時 平成28年8月23日（火）午後4時30分から午後5時30分まで

場 所 鎌ヶ谷市総合福祉保健センター4階研修室

出席者 菅谷幸乃部会長、平沢真哉副部会長、  
土屋知子部会員、林恵利部会員（鎌ヶ谷市健康増進課主任保健師）  
佐藤佳子部会員（鎌ヶ谷市こども発達センター分室主幹）  
松村幸江部会員、須鎌ひろみ部会員  
岩田友理子部会員（鎌ヶ谷市障がい福祉課主任保健師）

関係者 吉澤翔（第2北総病院リハビリテーション科科長 星山伸夫部会員代理）

欠席者 福田弘子部会員、星山伸夫部会員、  
野中幹子部会員（鎌ヶ谷市学校教育課副主幹）

事務局

（障がい福祉課） 齊藤実障がい福祉課長、藤嶋晶子課長補佐、中村浩主任主事  
（もくせい園） 三浦幸嗣氏

公開・非公開の区分 公開

傍聴者 0名

添付資料

- ・式次第
- ・「鎌ヶ谷市サポートファイル」使用状況アンケート結果

事務局より、欠席者の報告、出席者数が会議開催の定足数である過半数を満たしていることの報告及び傍聴者が0名であることを報告した。

## 1. 挨拶

藤嶋障がい福祉課長補佐より挨拶

## 2. 議題

### 【事務局よりサポートファイルのアンケートについて説明】

前回の部会の内容をもとに、サポートファイルの使用状況について、市内小中学校、子ども発達センター及び、みちる園、きららの2事業所を通じてサポートファイルの所持者に対してアンケートを実施した。小中学校については、まず、校長会議でアンケートへの協力を依頼し、サポートファイル導入時に学校に配付したファイルの数と同数のアンケートを各校に配り、さらに回収が夏休み期間に入ってしまうため、障がい福祉課宛の返信用封筒を添付して実施した（配付数は、小学校全9校で277枚、中学校全5校で77枚）。また、子ども発達センターでは、インタビュー形式でのアンケートの実施にご協力いただいた。

学校からの意見として、サポートファイルを誰に配付したのか把握していないためアンケートを配ることができないという意見や、アンケートを配付された保護者からサポートファイルをもらっていないのに、アンケートを配られたといった問い合わせが複数あった。

### 【平沢副部長よりアンケートの集計結果の説明】

#### 問1. サポートファイルを配付された場所

多い順で、子ども発達センター、のびのびルーム、学校、教育委員会、利用している施設、となっている。その他の回答において、市役所で渡された、そもそも配付されていないという回答もあった。

#### 問2. 学校や幼稚園・病院等に持って行ったことがありますか

持って行ったことがあるは全体の6割、持って行ったことがないは全体の3割強。その他の回答として、学校に預けたままでどこにあるかわからないなどの意見があった。

#### 問3. どこかで書いてもらったことがありますか？

回答が多い順に、子ども発達センター、学校、幼稚園となっている。

#### 問4. サポートファイルを手にして良かった点

「様子が記録できてよかった」、「ライフステージが変わった時に何度も同じことを伝えなくてよかった」、「本人というよりも家族の子育て記録として役立つ」、

「引っ越した時も役立った」、「担任が気にしてくれるようになった」、「1冊の成長記録とすることができる」などの意見があった。

#### 問5. 手にして困った点

「使い方が分からない」、「面倒だ」、という回答が多かった。また、「学校に持っていくと逆に先生たちに偏見を持たれてしまうのではないか」という不安の声や、「学校で預かっているので定期的に返してくれないと記録を更新できない」という意見もあった。

#### 問6. 他にもっとあった方がいいと思った項目はありますか

「勉強についての評価などを記す場所がない」、「発達スケールのように一覧表にできると発達の変化がわかりやすい」、「平均的な発達の様子」、「気になる行動リストなどの指針があるとギャップとして見つめやすい」などの意見がありました。

#### 問7. (記入いただいた方の性別・年代・対象者の年齢など)

30～40代の女性が圧倒的に多く97パーセントを占める。

#### **【アンケート結果を踏まえての意見交換】**

##### 部会員

「Q5.困った点」を分析してサポートファイル活用の課題を出していけばいいと思う。32パーセントの人が「使い方が分からない」と回答し、「その他」と回答した人たちの意見の中にも、「(学校の)ロッカーにしまわれている」とか、「先生とのやり取りの中で使われていない」という記述があるので、保護者も学校もサポートファイルの使い方をきちんと分かっていないことが、大きな課題だと感じた。

##### 部会員

こども発達センターでは来所された方にインタビュー形式でアンケートを実施した。その中では、それほど悪い印象は受けなかった。小さいお子さんの保護者からは、これから使っていくのだろうという感じであったし、すでに使っている保護者からは、特別支援学校に行くときには必ず持参して、それをもとに先生と話す時間を設けていると聞いた。年齢が低い子どもの保護者は、学校の先生にもきちんと提示していると思う。改定前のサポートファイル(現行のサポートファイルを導入する前の、学校独自のサポートファイル)は学校に保管してあったという話を聞いたことがあるが、この新しいサポートファイルの学校での取扱いがどうなっているのか知りたい。

##### 事務局

前回の部会では、学校の面談の際に必ずサポートファイルを持参してもらっているという事だったが、アンケートの記述を見ると、改定前のサポートファイルの保管の仕方などについて回答している人がいると思われる。サポートファイル

はもらっていないのにアンケートを渡されたという人もいたので、その点は、少し考慮する必要があるかもしれない。

部会員

改定前のサポートファイルを持っているという保護者は、ほとんど学校に預けたままで、現行のサポートファイルもそういう使い方をするのかと尋ねられたことがあった。保護者が管理する旨を伝えたが、今回のアンケートの意見を見ると、新旧どちらのサポートファイルについて尋ねられているのかわからない保護者も少なくないのではないか。

部会員

「Q5.困った点」に書かれていることから、学校に対してサポートファイルのねらいや使い方をしっかり伝えていくことが課題ではないかと思う。教員と保護者が話をするときサポートファイルがあることで、どういうところを中心に話をしたらいいのかをイメージしやすくなるという利点がある。そういう点を渡す側が理解していないと、渡したままで活用されなくなってしまう。小中学校の先生と保護者にきちんと使い方を伝えていく必要があるのではないか。

部会員

学校の先生にどう働きかけていくかが課題だと思う。

部会員

アンケート結果を見ていて、改定前の学校版サポートファイルと混同しているという印象を受けた。アンケートは通所している鎌ヶ谷市在住の方全員に配付したが、帰ってきたのは1通だけだった。その回答にもサポートファイルを知らないという内容のものだった。事前に電話でアンケートを配る旨を保護者に伝えた際にも、サポートファイルを知っているかを尋ねてみたところ、未就学児の場合は知っているという回答が多かったが、小学校3年生以上の子どもの保護者になると知らないという回答が多くなった。アンケート結果の対象児の年代をみると小学生という回答が多かったので、昨年度年長であった子どもの保護者が、こども発達センターなどで、サポートファイルをもらい、今年度小学校へ入学した際サポートファイルを活用したのだと思う。

部会員

私たちの事業所は成人を対象としているので、サポートファイルを持ってきたという人は、まだいないが、アンケートを見て思ったことはサポートファイルを、育児記録的に使う人もいるのだと感じた。学校版のサポートファイルもあったということなので、サポートファイルという名前自体を変えて、これは本人のための物ということの名前から明らかにするのもひとつの方法ではないか。

部会員

私たちの事業所も成人が対象なので、まだサポートファイルを活用しているという人はいないが、今までの記録があつたらいいのにと感じることは多い。使い方が分からないといった回答や学校に保管されているといった状況があるので、もっと使い方を説明する場があればいいと思う。学校の先生も使い方が分からないために学校で保管してしまっているのではないだろうか。

## 部会員

学校に保管されているということがいちばん気になる。目的が伝わっていない印象がある。また、サポートファイルを書いてもらったことがある場所として医療機関が少ない、対象の方たちが医療機関を受診していないというのであればよいが、サポートファイルを利用して医療機関と教育の場、家庭が連携していけばベストだと思う。そのためには学校やこども発達センターなどだけではなく、発達に関わるような医療機関にももっと宣伝していく必要があると思った。

## 部会員

サポートファイルの利用状況を追跡調査していくのであれば、ファイルにナンバリングして台帳を作って管理した方がよいと思う。しかし、その一方で、サポートファイルを持っていることが不利益になると感じている保護者もいるようなので、台帳を作るということが、受け取りやすくするということの弊害になるのかもしれない。

## 部会員

当初サポートファイルの学校への配付は、教育委員会を通して行おうとしていたが、結果としてこども発達センターから直接学校へ配付してしまった。教育委員会を通して各学校に配付していれば、学校側の理解も違ったのかもしれない。

## 部会員

事業所でアンケートを渡した際、学校からすでにもらっているという人はいなかった。先生たちも手元にサポートファイルが届いた時、使い方がよくわからなかったもので、まだ学校に在庫として残っているところもあるのではないかと。改めて、教育委員会を通して使い方を各校へ周知したほうがよいと思う。

## 部会員

学校には特別支援教育コーディネーターが配置されている。この方たちにサポートファイルのねらいを理解してもらえるとよいのではないかと。

## 部会員

家庭・学校・医療機関で短期の目標を共通認識として持てると、同じ目線で見ていけるのではないかと。今のサポートファイルの内容に、追加的に三者が連携できるような書式をつくると目標に沿って三者が連携することができると思う。

## 部会員

こども発達センターと医療機関に通っているお子さんも一杯いるが、医療機関で現状や取り組んでいることを書いてもらえるということがわかると活用も進むと思う。

## 部会員

支援学級にいる子どもたちは何らかの形で情報が引き継がれるが、普通学級の子どもたちは後で振り返ってみようとしたときの資料が何もない。そういう人にも使ってもらえるような、もう少し書きやすいサポートファイルになればよいと思う。

## 部会員

こども発達センターから支援が続いている子どもたちにはサポートファイルを持っているか、普通学級の子どもたちについては、学校側のサポートファイルへの認識もまだまだなので配付されていないことが多いのではないかと。それを渡そうと思うと配付の仕方をどのようにするのかも考えなくてはならない。

部会員

どこにもつながっていない子どもたちに対して、先生が気になって、サポートファイルを渡したら保護者はどう思うのか。抵抗のある保護者もいると思うので、配付の仕方にも注意が必要になる。

部会員

こども発達センターに通っているお子さんの保護者でも、偏見を持たれるからサポートファイルはいらぬという方がいる。小さいお子さんだと成長と共に状態が変わるかもしれないという思いも強い。

部会員

配付の仕方として、子どもの記録として使ってくださいと言うことで、母子手帳のように年齢で全数配付するという方法もある。

部会員

保育園に対して施設支援といって園から要請があれば、こども発達センターのセラピストが各保育園を回っている。その後、個別の相談につなげた方がよいという場合、こども発達センターにつながってくる。そこでサポートファイルを渡すのであればよいかもしれないが、保育園などの現場で渡すのはやはり難しいと感じる。

部会長

配付の仕方については、サポートファイル完成当初から話に上がっていた。グレーゾーンの方にも使ってもらいたいので、母子手帳のように配布してもいいのではないかという意見もあったが、結局結論は出なかったと記憶している。

事務局

今回アンケートをもとにいろいろな意見をお出しいただいたので、たとえば、目的を表紙に書いた方がいいのではないかと等、学校というだけでなく、全般的にアイデアがあれば9月9日（金）までに事務局にお出しいただきたい。

部会長

本日はこれで終了いたします。

以上、会議の経過を記録し、相違ないことを証するため次に署名する。

平成28年10月21日

氏名 菅谷 幸乃

氏名 平沢 真哉